

雨生池周辺の巨樹・古木

石 沢 進

雨生池は、トンボの棲息地として前橋営林局で保護していたことから、この地域には自然状態での巨樹・巨木が見られる。この地域はブナ林が植生の優占種であり、ブナの巨樹が多いが、中にはそれ以外の樹種の古木も多くみられる。ここでは、たまたま池の周囲の植生を調査する機会があり、確認した巨樹・巨木について記録する。この地域が引き続き良好な自然の状態に温存されることを要望する。

ブナの巨樹・古木

環境庁の古木調査では、胸高直径100cm以上の巨樹を主な対象樹としている。ここの樹林内には、胸高直径100cmを超えるブナが3本ほど確認できた。調査地を隈無く踏査したわけではないので、詳細な調査でさらに数を増すものと思われる。具体的には、次の3本であり、数値は胸高幹周で示している（以下同様、一部胸高直径で記す）。

雨生池（入り口）	494cm [写真 1]
番屋山登り	385cm [写真 2]
雨生池 南東側斜面	377cm [写真 3]

カツラの巨樹・古木

本種もこの地域では、少ないようで、この池の水源の一つである湧水の湧きだし口に生育している。カツラは巨樹になると材の中心部は腐食して空洞か、崩壊してしまうので、古木で残っているものも、幹が健全な形でない場合が多い。ここでも主幹がかなり腐食しているので、大きさの測定はできなかったが、2本ほどのカツラの樹が胸高直径100cmを十分超える大きさに成長している。湧水の水源を守る生き神様の風格を持っているかのように感銘を受ける。

雨生池 南側	根元部分腐食して大きさ測定できないが、ほぼ胸高直径で200cmの大きさである [写真 4]。
--------	--

ミズナラの巨樹・古木

本調査地域にはナラ類の分布は少なく、一部ブナ林に混生している。大きな樹は、乾燥気味の尾根沿いの斜面に生育している。100cmを超える樹は次の1本である。

番屋山登り	388cm [写真 5]
-------	--------------

ホオノキの巨樹・古木

樹林の中に点在する本種は、ここでもそれほど多くの個体が見られない。確認できた古木も1本だけであり、まだ、

胸高直径100cmには達していない。次の1本が平坦な立地に成立したブナ林の中に生育している。

雨生池 南側	246cm [写真 6]
--------	--------------

カスミザクラの巨樹・古木

県内でサクラの樹が樹林内で大きな巨木になっている事例をみていないが、単木で保護されて大きくなったカスミザクラは人家近くでみかけることがある。ここでは、番屋山のより斜面に生えて、枝葉を広げている。春先の開花期には、遠くからもこの山の斜面に咲く花が望めるかもしれない。開花期このサクラの存在を再確認してみたいものである。

番屋山登り	106cm, 119cm, 143cm [写真 7]
-------	----------------------------

アズキナシの巨樹・古木

この種の巨樹は、山の尾根沿いによくみかけるが、樹林をなすことはなく、単木の場合が多い。ここでも乾いた斜面に次の1本だけ大きな樹が育っている。

番屋山登り	95cm [写真 8]
-------	-------------

キハダの巨樹・古木

キハダは、かなり太い木になるが、本調査地域ではそれほど古木になったものは見られない。個体数も点在しているだけで、それほど多くない。

雨生池 南側	122cm [写真 9]
--------	--------------

アカイタヤの巨樹・古木

本調査地域でブナ林の中にアカイタヤの優占する群落が、わずかであるが存在し、また、単木でも点在している。群落では胸高直径72cmのものが最大であるが、単木では、次の太さのものが最大である。

雨生池 南側	256cm [写真 10]
--------	---------------

ヤマモミジの巨樹・古木

本種は日本海側に分布する日本海要素の一種であり、多くの場合低木状であって樹幹が立ち上がることはほとんどない。本調査地域でも例年厳寒期は積雪下に押し付けられているものと思われ、樹幹は横に倒れている。しかし、その横に這う樹幹の太さが、大きくなっている。根元をたどってその太さを調べたのが、次の値である。見かけは低木状であるが、その樹の寿命は、相当多年にわたっているも

のと推定される。

雨生池 南東側斜面 85cm [写真 11]

テツカエデの巨樹・古木

本種は主に亜高山帯によくみられる種であり、低海拔で太く成長している少ないと思われる。この生育地では、多雪地であり、かつ北斜面の雪が遅くまで消え残る立地であるとみられる。基部は多雪のため、根曲がりとなり、湾曲している。最大のものが下記の値である。

雨生池 南東側斜面 45cm [写真 12]

ヒトツバカデの巨樹・古木

ヒトツバカエデは、本調査地域では稀であり、個体数も少ない。番屋山のものは比較的大きくなっている。

番屋山登り 60cm, 71.5cm [写真 13]

ヤチダモの巨樹・古木

本種は池の縁近くに生育しているが、広い面積を占める群落とはならないで、縁に沿ってほぼ線状に生えている。最大の樹は池に張り出すように生えているので、幹の周囲を計ることができないので、胸高直径で、下記の大きさである。

雨生池 南東側斜面 胸高直径 84cm [写真 14]

シナノキ属の巨樹・古木

番屋山の上部には、シナノキ属のシナノキ、オオバボダイジュ、その雑種のノジリボダイジュが同所的に生育している。本数は少ないが、それらがまとまって生育しているので、それぞれの相互関係を知るのに興味深い。いずれも下記のように比較的太い樹幹に成長している。

シナノキ

番屋山登り 92cm, 153cm [写真 15]

オオバボダイジュ

番屋山登り 89cm [写真 16]

ノジリボダイジュ

番屋山登り 95cm [写真 17]

コハウチワカエデの巨樹・古木

本種は山野では、しばしば低木状のものが多い。まれに古木に出会うことがある。古木のみられるところは、尾根沿い

番屋山登り 140cm [写真 18]

スギの巨樹・古木

本調査地域には植林と思われるスギの巨樹が10数本育っている。太い樹幹のものは、小さな祠のある神社の境内に育ち、「雨生大権現様の森」と称されている。営林局の所有である時期伐採が予定された、地域住民の伐採反対の懇願で切らずに残されたという。見事な大木に育っているので、全体をまとめて町の天然記念物として指定する価値がある。たとえ指定しなくとも営林局で保存の配慮が必要である。測定した代表的なスギの樹幹はつぎのようである。

スギ（雨生大権現様の森）

259cm, 291cm, 260cm, 307cm, 249cm, 333cm, 331cm [写真 19・20]

なお、上記以外に本調査地域には、サワグルミの樹林があるが、特に胸高直径100cmを超えるような巨樹が観察できなかった。

今回の調査にあたっては、樹幹の測定に朱 雁・笹川通博の両氏にご協力頂いた。両氏に厚くお礼申し上げます。



ブナの樹林にかこまれた雨生池 2001. 9. 23



写真1 ブナ：雨生池（入り口） 494cm 老木で衰弱



写真2 ブナ：番屋山登り 385cm



写真3 ブナ：雨生池 南東側斜面



写真4 カツラ：雨生池 南側 胸高直径 ca200cm 根元部分腐食

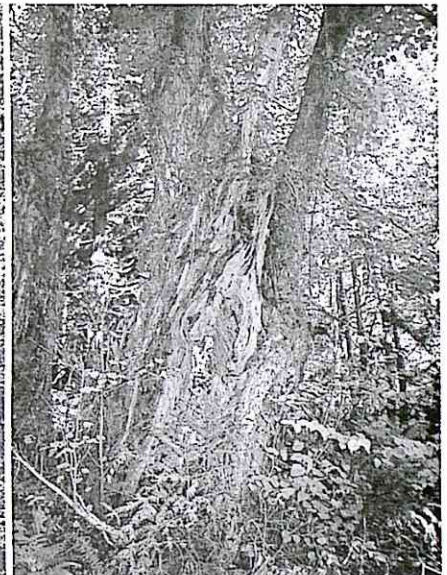


写真5 ミズナラ：番屋山登り 388cm



写真6 ホオノキ：雨生池 南側 246cm





写真7 カスミザクラ：番屋山登り
106cm, 119cm, 143cm



写真8 アズキナシ：番屋山登り 95cm

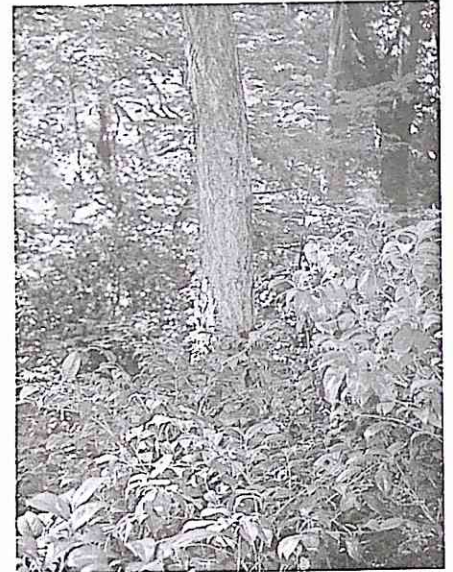


写真9 キハダ：雨生池 南側 122cm



写真10 アカイトヤ：雨生池 南側
256cm



写真11 ヤマモミジ：雨生池
南東側斜面 85cm



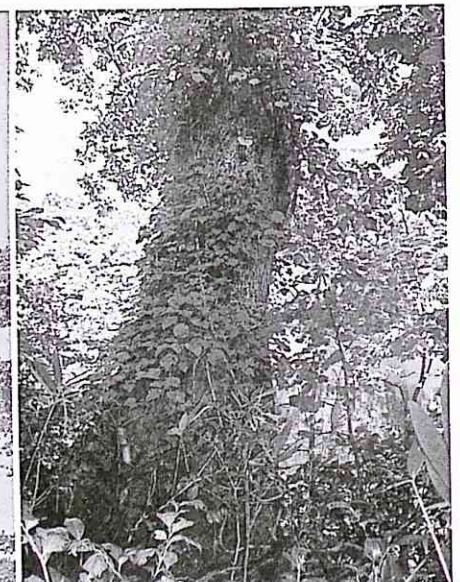
写真12 テツカエデ：雨生池
南東側斜面 45cm



写真13 ヒトツバカエデ：番屋山登り
60cm, 71.5cm



写真14 ヤチダモ：雨生池 南東側斜面 84cm (直径)



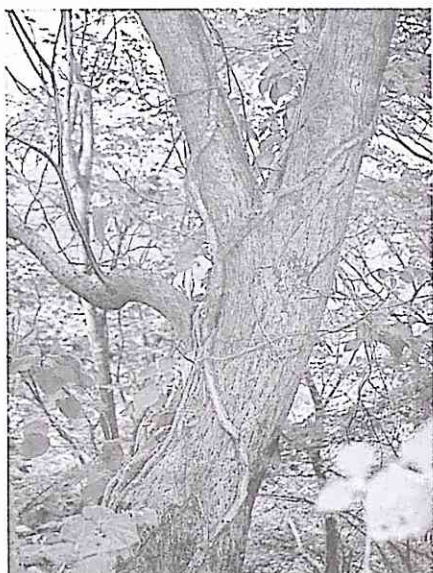


写真15 シナノキ：番屋山登り
92cm, 153cm



写真16 オオバボダイジュ：番屋山登り
89cm

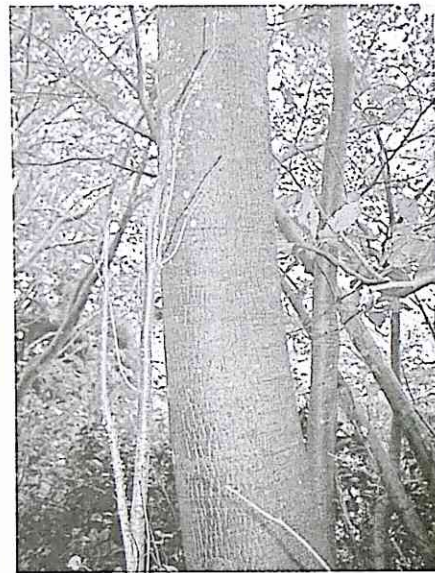


写真17 ノジリボダイジュ：番屋山登り
95cm

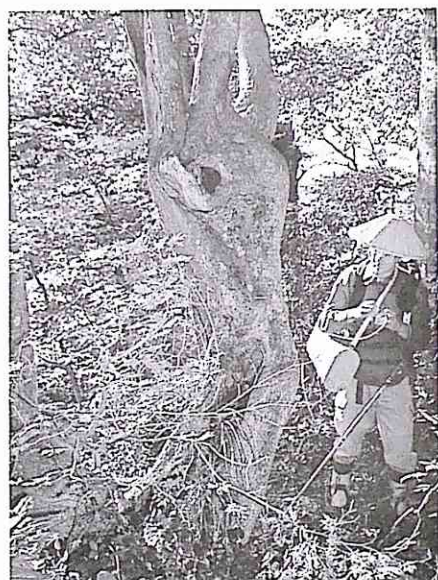


写真18 コハウチワカエデ：番屋山登り
140cm



写真19 スギ：雨生大権現様の森
259cm, 291cm, 260cm, 307cm, 249cm, 333cm, 331cm



写真20 スギ：雨生大権現様の森 259cm, 291cm, 260cm, 307cm, 249cm, 333cm, 331cm

